第九代広島大学長予定者 原田康夫先生にインタビュー

広報委員会　堀越孝雄

田中隆荘学長の任期満了（五月二十日）に伴う学長選挙は、二月十六日に投票、十七日に決選投票が行われ、医学部長の原田康夫教授が第九代の学長予定者に選出された。そこで、二月二十三日に広報委員長がインタビューし、先生の横顔の一端を、「広大フォーラム」の読者諸氏にご紹介することにした。

先生、まず、現在のご心境をお聞かせ頂けませんでしょうか。

非常に責任の重さを感じております。私は、広島大学医学部の一期生でして、私をここまで育てて頂いた広大に対して、全身全霊をかけてお返しをしたいと思っています。広島大学をよい大学にするために、広く教職員、学生の方々のご意見をいただき、できることは何でもしたいと思っています。

先生は、まず統合移転をやり遂げたいと仰っておられますが、移転完了後の新キャンパスでの交通問題、霞地区の整備の問題、さらに地理的に離れた二キャンパスをいかに有機的に結びつけて総合大学としての体制を整えていくかという問題、この三つについてのお考えをお聞かせ頂けませんでしょうか。

まず、キャンパス内の交通問題については、出来得れば学内バスの運行を実施したいものです。駐車場については、将来は立体駐車場が絶対に必要になるでしょう。その際、受益者負担ということも必要かも知れません。二キャンパスの結び付きについては、学内の情報通信システムを整備し、連絡を密にしたい。さらにテレビ会議も出来るようにするべきだと思っています。霞地区の整備については、私が病院長の時、約七年前に霞再開発案を企画しました。それは、二十年計画くらいで、霞キャンパスの建物をすべて南側に移し、高層化し、中央部を緑地にするというものです。

教育研究の整備についてはどのようにお考えでしょうか。

田中学長が、非常にエネルギーをかけて理念をつくっておられますので、基本的にはそれに沿って最大の努力をしたいと思っています。大学院については、全学問分野の大学院を学部の上にあげ、大学院を充実させたいと思っています。国際性の問題については、現在の学部間交流、大学間交流をさらに拡大し充実させたいと思います。又教養的教育と専門教育とのカリキュラムの一層の充実をはかり、より一貫性のあるものにしたいと思います。

教室で、常々、仰っているようなことがおありでしょうか。

〝ホウレンソウ〟と言っています。報告、連絡、相談を密にしなかったら、医者の世界では大変なことが起こります。それと、礼儀ですね。そういうコミュニケーションがきちっとできて、初めてものごとはうまくゆくものですね。

先生が医学を志された動機、また医者あるいは学者として感動されたことなどについてお聞かせ頂けませんでしょうか。

私は、最初は音楽の道に進もうかと思ったのです。音楽をやっていたから耳鼻科に進んだのです。感動したことは、三半規管から電位を取り出して、エワルドの法則を初めて生理学的に証明したこと、次にノーベル賞を受賞したバラニーの学説が宇宙空間の実験で否定されたのを私の生理学的実験で説明し得たことです。地球上ではバラニーの学説が正しいが、宇宙空間では私の density theory を加えないと説明出来ないことを発見した時です。そして、走査型電子顕微鏡で内耳の中の超微細構造をみたことなどでしょうか。

ご趣味はなんでしょうか。

声楽とヴァイオリンです。毎晩ヴァイオリンを一時間は弾いています。現在は、メンデルスゾーンの協奏曲に挑戦しています。四十五歳からはゴルフをやっています。

だいぶ長くなりましたが、本日はお忙しいところをありがとうございました。

やると思ったら必ずやるというファイトと、繰り返し体で覚える、とにかくやってみるということをモットーにされた徹底的な自然科学者だなということを印象づけられたインタビューでした。ご健康で、ご活躍されることをお祈り致します。